



同窓会報



北陵

会報 第23号

●発行所●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
●編集●
同上編集委員会
●印刷所●
こだま印刷

限らない発展を願って

同窓会会長

菊地恒三郎



会員の皆様には、日頃
から同窓会の諸活動に
種々ご協力をいただき、
厚くお礼申し上げます。

早いもので、平成七年
四月に新生「真岡北陵高
等学校」が誕生し、新た
な歴史の第一歩を踏み出
して以来、もうじき五回
目の新入生を迎えようと
しております。

近年の高度情報化や高
齢化社会の進展など、時
代の大きな変革の中で、
農業系、商業系、家庭系
を合わせ持つ総合選択制

すばらしい農業クラブ活動

学校長

山口祐司



同窓生の皆様には、日常
頃から母校に対してご支
援・ご協力を賜りまして
厚くお礼申し上げます。

平成九年度の創立九十
周年記念式典並びに記念
事業につきまして、同窓
生の皆様の温かいお力添
えを賜りまして、心から
感謝申し上げます。

平成十年度から創立百
周年に向けて準備をはじ
めたところです。

さて、本年度の生徒の
活動で目立ったものを同
窓生の皆さんに紹介いた
します。

の進学が飛躍的に増大し
ており、本校で培った建
学の精神を胸に、自己の
教養を幅広く、確かなも
のへと深めていくというす
る意欲は、誠に心強いも
のがあります。

専門高校として生まれ変
わった本校も、在校生を
はじめ、諸先生方、
PTAのご尽力と同窓生
各位の温かいご支援によ
り、前身の農業高校時代
からの輝かしい歴史と伝
統をしっかりと継承し、
三学科系がバランス良く
調和した、活力ある職業
高校へと大きく変貌を遂
げることができました。

現在の農業を取り巻く
情勢は、農産物の輸入自
由化や後継者不足の問題
など、厳しい状況下には
ありますが、芳賀地方の
農業を今日まで支えてき
たのは、まさしく本校の
多くの卒業生であり、在
学中に培った「真農魂」
を忘れることなく、首都
圏農業の確立と足腰の強
い魅力ある農業の展開を
目指し、引き続きご活躍
くださるようお願いいた
します。

最後に、母校の限りな
い発展のため、会員皆様
の更なるご支援、ご協力
をお願い申し上げます。
移といたします。

同窓会青年部長として

平成二年卒業

鶴見英樹



同窓会本会員の先輩方、
北陵高校の先生方には
色々御指導いただき厚く
御礼申し上げます。

私は八年前、本校（当
時は真岡農業高）の食品
科学科を卒業し、大学、
留学へと進み、今は外資
系企業で未熟な社会人と
して歩んでいます。

八年から十一年前の高
校時代が蘇ったかのように
懐かしく思われます。
伝統ある同窓会青年部を
引き継ぎ今年度活動して
参りました。

今年度は北陵高校の第
二期生が巣立ち幅広く活
躍してくれることと思
います。自分の夢、希望を
実現させるよう頑張っ
ていきたいと思っています。
同窓会青年部として心よ
り祈願致します。

さて、今年度の青年部
は新役員（計二十一名）
で一年間不安を抱えなが
らも、同窓会青年部事業及
び会務を実行して参りま
した。実行するたびに失
敗が多く反省する事がほ
とんどでした。来年度は、
今年度以上に、活発に且
つ積極的に活動してい
きたいと思っております。

ここで、平成十年度同
窓会青年部役員を紹介致
します。

- | | | |
|-------|-------|----|
| 部長 | 鶴見英樹 | 平二 |
| 副部長 | 仁平正美 | 二 |
| 副部長 | 藤井浩美 | 二 |
| 副部長 | 石坂志穂子 | 四 |
| 会計監事 | 齊藤和弘 | 二 |
| 会計監事 | 小宅信子 | 五 |
| 会計監事 | 佐藤実樹 | 五 |
| 常任委員長 | 阿久津好春 | 二 |
| 常任委員 | 伊東徹也 | 二 |
| 常任委員 | 増田了 | 二 |
| 常任委員 | 藤田勝典 | 二 |
| 常任委員 | 矢島稔子 | 二 |
| 常任委員 | 薄根伸一 | 四 |
| 常任委員 | 中里一広 | 六 |
| 書記長 | 村松芳美 | 二 |
| 書記 | 手塚和子 | 五 |
| 書記 | 矢口麻美 | 五 |
| 支部幹事 | 東裕之 | 二 |
| 支部幹事 | 石沢雅士 | 二 |
| 支部幹事 | 松本裕 | 二 |
| 支部幹事 | 菊地秀紀 | 三 |
- 以上二十一名で今年度、
一年間運営して参りました。
- 今後、若き溢れる、
「これぞ北陵高同窓会青
年部」といえる活動をし
ていきたいと思います。
- 最後に、今後共にお一
層のご支援、ご協力、ご
指導の程をお願い申し上
げると共に感謝の意を申
上げます。

助役再選おめでとう

助役再選に当り一言



昭和十五年卒業
田上進一

顧みますと平成元年六月収入役就任、二期目任期途中同六年四月助役就任、同十年三月任期満了、四月一日付、助役に再選されました。

八年九ヶ月の間、議会は勿論市民を始め、同窓会皆様の特段のご支援ご協力により大過なくその職を果たすことが出来ました。ご厚情に対し心から感謝申し上げます。

再選されました上は本会の会長である菊地市長の補佐役として、地方行政の重要性を改めて認識すると共に、市長と異体同心、市政発展市民福祉の向上の為、微力をつくして参りたい決意を新たにしている所であります。

金融不安、社会不安、雇用不安、激動化する内

開発の一環としての門前地区の区画整理事業等、一日も早く着手にむけ推進しているところであります。

優良農家紹介

最先端技術の農業



昭和三十五年度卒業
中部支部
鶴見信夫

内外を取りまく社会情勢は、厳しく先行き不透明であり財政的に厳しい現状にあります。しかしながら個性豊かな、魅力ある地域社会を築き上げることは、執行部、議会に課せられた、大きな責務であります。

行政は一日たりとも停滞することは許されません。

補佐役として、菊地市長と共に、福祉行政の充実強化はもとより、都市基盤や、生活環境などの重要課題の解決に、全力で取り組みたいと存じます。

同窓会皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

農業士就任おめでとう

農業士として！



昭和四十四年度卒業
山前支部
藤井勉

平成十年一月八日、栃木県農業士として、十名の仲間と共に、県公館に於いて、知事さんより、認定書をいただき、認定をされてまいりました。

この認定にあたりましては、地域内に立派な経営をしている方、スバライ技術を持っている方がたくさん居る中で、私の様な者が推薦をされたこと

言う事で任務の重大さを深く感じております。

現在、私は家族と共に

専栽培をしております。本県の持つ地理的優位性を生かした、首都圏農業の、先頭に立つ意気込みで、三年前より、高設ベ

私は、昭和三十五年、真岡農業高校農業科を卒業と同時に就農しました。当時は、米二百五十アール、干瓢百アール、玉ねぎ八十アールを耕作して

いました。当時を振り返ると、夏場の干瓢時期に天候に左右され、苦勞したことが思い出されます。それから、毎日平均的に乾燥できるようにビニールハウスを作り、乾燥機

を入れるなどして干瓢を耕作していました。しかし、連作障害や価格の低迷などもあったので、農協の指導を受け、平成二年から路地茄子に切り替え

ました。収入の面で安定してきたので、平成七年から、従来の路地栽培

もので、着実に進歩しているものと思っています。

二十一世紀を目前に控

え、農業の担い手の減少や高齢化問題は、全国的なものがあり、専栽培でも例外ではありません。若者が、喜んで就農したくなる様な作業環境作り



我家の農業



昭和四十二年度卒業
真岡支部
館野福一郎

私は昭和四十三年に卒業し、就農しました。当時、我が家の農業経営は、米を中心とした経営を行っていました。

私は就農後、農閑期を活用した専栽培、抑制トマト栽培を導入し経営の改善を行って来ました。

その当時は、米の増産運動により米を主体とした経営でしたので農作業は稲作中心に行なっていました。しかし、その後、米の減反政策が始まり、

五十三年から政策の、より一層の強化が計られ、我が家の経営の改善を余儀なくされました。

そこで減反田を利用した麦、大豆の栽培に取り組み、それなりの成果はありました。しかし、数年後には、連作障害、価格の下落等で、経営は行き詰まりを感じるようになり、経営の転換を迫られました。今まで耕種経営の裏作として専栽培をしていた経営を、表作としての専にしようと考え、

定などのコンピュータ操作に慣れなければならぬことなどがあげられます。しかしこれらの農業経営は、既存の農業と最先端技術の農業とを併合し、より安定した収入を目指すことが重要ですので、今後は一層、努力と勉強が必要だと考えています。

学び舎の思い出



昭和四十二年度卒業
物部支部
猪野邦夫

白髪の混じる頭を見ながら、少しではあるが、人生をかえりみる時を持つてようになり、成人した息子と娘の結婚話の話せる歳になった小生に、話せる歳になった小生に、同窓会々報に一言とお話をいただき、久々に高校時代をかえりみる事が出来ました。

入学して農場に行くと、トラクターをはじめ、多くの大型機械が導入されており、目を見張るものがあつた。時代も、米一割増産のかけ声の中、陸田の普及が卒業生を中心に、芳賀全域に広がったのではないかと思われま

す。

二年生になり、分校舎に移り、鶏舎の南側で、鶏糞の甘い香り、弁当の味が変わった事を、思い出されます。そんな中、施設園芸を選択し、豊島



小生も縁が有り、息子が真農に入學し、PTAの役員の一人として、久々に母校の土を踏んだ時、授業のカリキュラムがあまりに変わっており、おどろきと戸惑いを感じました。これも時代の流れかなと、納得しました。又、校名も変わり、小生もちよつぱりさびしさもあるが、北陵高校として、御発展する事を、卒業生の一人として御祈念申し上げます。

優良農家紹介

これから農業を



昭和四十四年度卒業
田野支部
柳 芳伸

八幡ヶ丘を卒業後直ちに就農して早や三十年になろうとしています。何の迷いもなく両親のやっていたタバコ作りを昭和六十二年まで専業でましたが、折からのバブルの好景気の真最中にも拘わらずタバコには減反政策が協力に進められてきたのです。我家でも減反

に協力し新規の作物として苺を作る事にしました。当時は両親も若かったのでタバコと苺の二本立を目指したのです。どちらかと云うと親まかせでやってきた私ですが苺作りとなるとそうもいかず当初は大変な思いをしました。仕事の量も責任感も格段に増えまし

我が家の苺栽培



昭和四十六年度卒業
山前支部
古川 亮

私は昭和四十六年度真岡農業高等学校農業科を卒業と同時に就農致しました。当時は親たちはダナー種を栽培していましたが自分は早生種の宝交種を栽培し作業実習の中で作物を育てる楽しさを実感しました。その後ダナー、レーコーを栽培、現在はおとちとめを主流に女峰と二種類を三アール栽培しております。ハウスはウォーターカーテンの単棟を栽培していますが将来はロックウール栽培の導入を考えております。七年前より二本タイプの夜冷施設の導入により少面積での箱育苗定植時の労力の省力化



たが自分の仕事をしていると云う実感が励みとなつて今まで続けてこれたのだと思います。

現在我家ではタバコを二ヘクタールと苺を土耕で十五アール程耕作しています。タバコ専作の時の二倍の所得をあげています。しかし今の経営にも問題が山積しています。両親の老令化による労力不足もありますし、タバコの値下げの動きと規模拡大の限界等幾つかあげられます。そう云った状況の中で今年（二十年）の春、大学を卒業した息子が農業をやる

と云いましたので正直複雑な思いをしました。でも息子と良く話をした結果その決意が固いのを知つて一安心をしました。息子は現在、二宮町の国府田厚志さんの御好意により元気に苺作りと農業経営についての研修を受けています。今年の秋からは苺の養液栽培を十一アール程始めましたが、新しい栽培技術は新しい後継者に任せようと思つています。しかし、私もまだまだ負けていられませんが息子が協力してこれからは農業をしっかりと楽しくやっていきます。

我が家の農業



昭和五十五年度卒業
益子支部
久野 昭

私は、昭和五十五年度に、園芸科を卒業し、その後、農業短大の経営研修科に進み、梨栽培を学び、その後就農しました。経営内容は、繁殖和牛を中心に、梨、水稲の複合経営であります。学生の時、我が家の農業経営という事で、卒業をまとめたことがありました。その内容は、今後の我が家の農業経営ということで、梨栽培を中心に梨、百五十アール、繁殖和牛二十頭の経営目標を立てました。しかし就農してみると、農地の問題などで梨の増反はむずかしく、繁殖和牛の増頭を計り、梨栽培中心から、和牛中



農業と私



昭和四十五年度卒業
山前支部
横山 茂

私は、昭和四十五年度に卒業し、同時に就農しました。当時は高度成長も終りに近づいていました。同級生の約半数は他産業に就職しましたが多くの級友が就農しました。私の住む山前地区も多く先輩方が先進的な農業に取り組みでいましたので、私も迷わず就農することが出来ました。その頃の我が家の経営は、米と苺でした。苺はダナーの株冷栽培が中心で、現在の苺栽培から比べると所得もかなり低か

新しい農業経営を目指して



昭和四十九年度卒業
中村支部
鶴見 初江

農家に嫁いで二十年あまりが過ぎました。当時は、プリンスメロン、夏秋なす、水稲を栽培していました。主人がサラリーマンであるため、家事と子育ての合間に手伝うくらい程度でした。子育てが一段落し、両親と共に、本格的に農業に従事し、プリンスメロンから、ネット系のクインシーメロン、タカミメロンを取り入れ、栽培面積も広げ、経営の安定化に努めました。このころから、農業に対する考え方

方も変わり、仕事にも熱が入り、作物を育てる喜びを感じる様になりました。三年前から、母の病気を期に、農業経営を譲り受けました。しかし、労働力の問題から魅力を感じていた、メロン栽培を断念し、今までのパイプハウスに手を加え、連棟ハウスにし、加湿機を導入し、新しい試みである「ハウスなす」に、挑戦してみました。夏秋なすの栽培の経験はあるものの、敏感な作物であるため難度の栽培技術を必要とします。それだけに、奥深いものを感じ、やりがいがあります。毎日毎日が勉強です。JAはが野のスタッフと十五人のハウスなすのメ



ンパーに支えられながら、がんばっている毎日です。将来は、確かな栽培技術を身につけ、ロックウール栽培にも、挑戦して行きたいと思っています。同時に、農業を離れて行く若い人達が多い現在で若者が魅力を感じるような農業経営も、目指したいと思っています。

挨拶と報告



PTA会長
梶村 健二

同窓会の皆様には益々御健勝にて、御活躍のこととお喜び申し上げます。又PTA活動に対しまして、日常より御指導、御支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

十一月七日校内マラソン大会には、先生方、又は農場の先生方の御協力を頂き、学年委員皆様と豚汁のサービスを行いました。生徒達に大変好評であり、大釜四個、約八百食の豚汁があつたと言います。

本校も平成七年より校名を改称致し、総合選択制高校になり、各科の設備も整い生徒諸君の活躍が随所に見受けられます。

十月六日から三日間、北海道で行われた農業クラブ全国大会では、二部門で最優秀賞を受賞致しました。また、スポーツ関係もインターハイ出場等、活躍をしております。これらも先生方の熱心な御指導の賜と感謝申し上げます。

今年度のPTA活動は四月二十五日の総会で、役員、支部役員が決まり事業計画等を協議し、スタート致しました。五月二十九日に第一回の役員会を開催、各委員会の活動計画が立てられました。支部会は六月十八日から二十日までの三日間で実施され八十五%と言う高出席率で終了することが出来ました。

研修旅行は、昨年までは一泊で実施してきましたが、会員の間では日帰りと言う声もあり、研

活動報告

平成十年度

農業クラブ活動について

農業クラブ顧問 横山 孝司

今年度も、様々な活動を行いました。年間の農業クラブ活動をそれぞれ行事毎に振り返ってみたいと思います。

一、農業クラブ説明会
四月十八日(土)、一年生を対象に本校旧体育館で農業クラブの活動について説明をしました。

鑑定競技会の説明では、農業科コース、農業機械科コース、食品科学科コースごとに問題を設定し、問題を生徒席前で提示しながら司会者が質問をして正解者には、記念品をプレゼントしました。また、意見発表の説明では、全国大会最優秀作品をビデオで見てもうしました。次に、プロジェクト発表の模範演技を県大会代表になったクラブ員に

してもらいました。

二、農業クラブ総会
五月六日(水)、農業科の全生徒を対象に体育館で農業クラブの総会を開きました。総会では、今年度の農業クラブの年間行事や予算・決算などについてクラブ員の皆さんに検討していただき

ました。

三、校内意見発表大会
五月十六日(土)、本校旧体育館にて校内意見発表会を開催しました。この大会は、県大会の選手を決めるものであり、クラス選考後練習を行ってきたクラブ員も多く、今年はずっと立派な発表が多くを占めました。

各クラスから代表が1名ずつ参加したので合計九名で大会を行いました。今年度の成績は、A部門三年一組菊島淳亮さん、B部門二年二組高松俊一さん、C部門二年三組関谷里美さんの三人が県大会に進み、高松さんが県大会で入賞しました。

四、校内鑑定競技会
六月十七日(水)本校旧体育館で校内鑑定競技会を行いました。鑑定競技会は、校内で一位の生徒が全国大会選手となるため、多くのクラブ員が競技会前より学習を怠らないうで高得点の解答が数多く出ました。

さて、今年度は、農業科コースに三年一組の川上幸太さん、農業機械科コースに三年二組の柳田和寿さん、食品科学科コースに三年三組の飯村由香理さんが参加しました。そして、柳田和寿さんが最優秀賞に輝き、川上幸太さんも入賞を果たすことが出来ました。おめでとうございます。

五、意見発表県大会
平成十年六月十日(水)本校を会場に意見発表県大会が行われました。今回は、A部門「農業の経営や流通に関すること」に六名、B部門「産業人としての生き方に関すること」に七名、C部門「地域の文化や生活に関すること」に六名の参加がありました。教科「園芸デザイン」を選

択しているクラブ員に協力を得てコンテナガーデンを作成、会場の飾り付けに華を添えることが出来ました。また、パソコン部のクラブ員には、看板の文字作成に協力してもらったなど、本校クラブ員による手作りの県大会を開催することができました。

七、プロジェクト発表会
平成十年の一月に校内大会が行われ、A部門三年一組市川栄一さん他十名、B部門三年一組向井田直純さん他十名、C部門三年三組関岡佳恵さん他十名が七月の県大会に出場し、A部門が県大会で最優秀となり関東大会に参加しました。八月に埼玉県で行われた関東大

平成十年度
家庭クラブ活動

家庭クラブ顧問
菊地 美智子

校内の家庭クラブ活動は、奉仕・勤労の精神をもとに学習環境が良くなるように、また、体験を通して学ぶことを目標として活動しております。

家庭クラブ役員が力を合

わせ、活動をより活発にしようと努力しています。

活動内容も年々充実してきており、生徒達が計画を立て自主的に運営しています。年度当初に立てた事業計画を次に掲げさせていただきます。

平成十年度 事業計画
四月 役員会
五月 家ク紹介・総会
六月 調理講習会

七月 被服講習会
八月 保育実習(三年)
九月 全国研究発表大会
(埼玉)

十月 西真岡保育園交流
会(梨狩り三年)
十一月 西真岡保育園交流
会(芋掘り二年)
十二月 西真岡保育園交流
会(芋掘り二年)

十二月 家ク意見発表会
一月 調理講習会
二月 家ク役員研修会
三月 家ク役員研修会

以上のような行事を成功へと導くために何回もの役員会を開き、原稿の読み合わせなどを行いました。本番では役員達の

緊張が私の所にも伝わってきまして、そして、この緊張感に役員達にとつてかけがえのない財産として成長の一助となったことと思います。

年間を通して活動して



いる空き缶回収は役員が当番制で実施しています。が、缶の中がきれいに洗っていないものも多く、そのため足にジュースの残りがかかってしまったり、缶から出る臭いに悩まされたりと大変な思いをしています。しかし、不満を言わず黙々と袋づめする姿には感心させられました。袋づめしたものを神戸製鋼に運びリサイクルしてもらい、家庭クラブ運営の益金にしています。

今年度の行事も残り少なくなってきました。他校の活動も参考にしながら、より一層充実したものと、クラブ員の高校生活が実り多いものとなるよう、また他の生徒達への一つの啓蒙となれば幸いと考えております。

があつたのではないかと私達は、解からない事があるとか議論を開きます。研修旅行の時もそうでした。全員に集まってもいい話をし、その他に葉書や電話で参加を呼びかけ、北陵高校のバスが満員になるほどの参加をいただきました。これも先生方や青年部役員の協力が実を結んだものと言えるでしょう。これからも沢山交流をし、同窓会青年部運営に携わっていきたいと思います。

「青年部活動を振り返って」

副部長 石坂 志穂子

役員になる。安易な考えでいとも簡単に引き受けてしまひ、最初は後悔の連続でした。右も左も何をどの様に運営するのかわからず、役員を集めるのにも「何をやるかなの」と聞かれても答えられない事もありました。が、今は北陵高校の伝統とこれからの農業経営のありかたを新同窓生に伝えていく所なのだと思

います。



が、あつたのではないかと私達は、解からない事があるとか議論を開きます。研修旅行の時もそうでした。全員に集まってもいい話をし、その他に葉書や電話で参加を呼びかけ、北陵高校のバスが満員になるほどの参加をいただきました。これも先生方や青年部役員の協力が実を結んだものと言えるでしょう。これからも沢山交流をし、同窓会青年部運営に携わっていきたいと思います。

を得。我が家の農業経営について深く理解することになりました。卒業後、発表を支えてくれた仲間達に感謝いたします。

海外研修

オランダの農業に触れて

生物生産科三年 市川 栄一
二年 富山 義和

私達は、平成十年七月九日～八月四日の約四週間にかけて行われた第九回オランダ派遣農業研修に研修生として参加しました。この研修には、県内七校の農業高校より代表十名が選ばれて行れました。この研修は、オランダの農家にホームステイして研修を行うもので、七月九日に成田を出発して、十二時間ほどでつきました。十日には、アースメールの花の競売



場を見学しました。この競売場は世界一の大きさで、見学するのがとても大変でした。見学後、ホームステイをするロイネンまで向かいました。十一日に初めてホームステイ先のファミリーと対面しました。私たちがステイしたのは、ハウジングファミリーとレオファミリーでした。とても明るくやさしい人たちでした。この日から三週間各ファミリーとの生活が始まりました。

せむようになり、楽しく生活できるようになりました。研修中に一番心に残っているのは、メッペルでの家畜品評会、ARNHEMの見学、送別会です。メッペルでの家畜品評会は、日本の品評会と違い牛がよい牛ばかりでした。そこでは、牛だけでなく羊や、うさぎなどもいました。そのあとメッペル祭りをやっていたので自由に見学できました。メリーゴウランドなどがあり、遊園地のようでした。ARNHEM見学では、昔のオランダの生活がわかるテーマパークのような所でした。午前中自由行動で、午後

はファミリーと一緒にクイズを解きながら見学しました。昔の農家や風力を使った製材などがありました。そこでは、風車の中が見られました。その帰り道では、車で約百八十里くらい歩いていました。少し怖かったです。送別会では、修了書をもらいました。送別会の最後に花火をしたらとても、喜んでくれました。私たちは、このオランダ研修をこれからの生活、これから私が行っていく農業に少しでも生かし、将来オランダに負けない農業経営を目指してこれからも頑張っていきたいと思っています。

平成十年度は、経済の大混乱に翻弄された一年でした。本校としては、新学科の第二期生の卒業の年であり、昨年の実績を受け継ぎ大いなる飛躍が期待された年でありました。しかし、経済不況は予想以上に厳しく、大手銀行や大企業の倒産の余波を受け、前代未聞といつてよいほどの就職難の年になりました。

【進学について】 四年制大学には、宇都宮大学の農学部、教育学部に各一名、東京農業大学八戸工大、立正大、梅光女学院大、上武大(二名)、高千穂商科大、流通経済大、石巻専修大、那須大、作新学院大に計十三名が合格をしました。短大は東京農業大短大、酪農学園短大、国学院栃木短大、つくば国際短大、白鷗女子短大、嘉悦女子短大、佐野国際情報短大、共栄短大、東京文化短大、作新学院短大の各校に計二十三名が合格をしました。

【就職について】 経済の混乱と不況に見舞われ、未曾有の就職難の年となりました。求人数の大幅な減少、あるいは募集停止などの他、大生・短大生・専門学校生の就職活動の早期化によりますます高校生の就職が難しくなりました。ただその中にもあっても校長先生を始めとした各科の先生方による地道な進路開拓により、未定者を減らし、無業者も減少しました。このようなことから昨年度を上回る実績を上げることができました。

進路状況

進路指導部長

川口 滋

収穫多かった オーストラリア研修



三年一組 青柳 善直
今回、私達が参加したオーストラリア研修では、有名な観光地だけでなく、普段では行くことのできない場所などにも土井さんの案内で行くことができました。オーストラリアを何倍も楽しむことができました。ホームステイでは、各家庭に別れ、やはり言葉では多少苦労しました。

が、オーストラリアの文化や生活を身を持って体験することができました。皆、今回の研修を通じて言葉ではあらわせない何かを手に入れたのではないのでしょうか。

二年六組 杉山 彬子
オーストラリア研修に参加し、いろいろな経験をすることができました。ホームステイでは、日

本とは違う生活習慣を肌で感じたり、現地の人とコミュニケーションをとることができ、とても楽しい思い出をつくることができました。老人ホームでのボランティアでは、実際に食事介助やシート交換をさせてもらい、日本との違いを勉強することができました。また、すばらしい人達との出会いがあったり、美しい場所をたくさん訪れることができてとても楽しいです。

一年一組 小口佳代子
初めての海外に心もとなくオーストラリア研修に参加しました。十七日間で体験できたことはわずかですが、大きく成長できたと思います。それは、日本とオーストラリアの生活の違い、自然を愛する心、規模の雄大な農業、そして自立心、積極性が強まったことです。英語が聞きとれないとき、伝えられない

ときは身振り手振りで伝え合い、ホームステイではレタスとキャベツの苗の移植を実習しました。日本と違った土、方法を学び、貴重な体験となりました。

研修参加者
Aコース(福祉・商業)
上野 美津江(二一四)
上野 歩美(二一六)
杉山 彬子(二一六)
塩野 谷朱美(二一六)
鳥羽 美穂(二一六)
中山 雅仁(引率教諭)

Bコース(農業)
青柳 善直(三一)
上野 喜一(三一)
荻部 貴浩(二二)
上野 学(二二)
毛塚 美絵(二二)
小口 佳代子(二二)
小林 達史(二二)
坂入 栄衣(二二)
塚本 和也(二二)
外山 光一(引率教諭)

編集後記

本年四月には統一地方選挙が行われます。この戦いには本校同窓会会員の中から数多く立候補されると思われます。そして選挙戦にのぞむ勇姿は、まさに人の生き方として格別の趣きがある事柄でもあります。見事に当選をなされた各位が、来るべき同窓会総会と祝賀会に健勝な姿で出席されることを編集委員一同より期待を致しております。

編集委員長 井野 博